

ハリナデシコ *Petrorhagia saxifraga* (L.) Link

会長 勝山輝男

不定期に県博に行き、未同定標本の同定と標本の整理をしています。2004年に山形県で採集されたもので、ナデシコ科カスミノウ属のヌカイトナデシコ *Gypsophila muralis* L.に似ているが、少し大形なので異なるのではないかと同定依頼された標本が出てきました。

多年草で基部はやや木化し、葉は針状、花序は疎らな集散状で、細い花柄の先に1個ずつ径5~8mmの桃色花をつけ、萼片は合着して鐘形、萼の基部に萼よりも短い苞が4個あります。当時、ヌカイトナデシコではないことを確認しましたが、カスミノウ属には該当するものがなく、種名を調べるところまではいきませんでした。

萼片が合着し、その基部に苞があることから、『神奈川県植物誌2018』のナデシコ科の検索表では、ナデシコ属 *Dianthus*、ドウカンソウ属 *Vaccaria*、サボンソウ属 *Saponaria*、コモチナデシコ属 *Petrorhagia*、カスミノウ属などが該当します。神奈川県植物誌は帰化植物が多く扱われているので、このようなときにあたりをつけるのに便利です。上記の属はヨーロッパからユーラシアに多いので、ヨーロッパのフロラや図鑑で調べることになります。

Bonnier and Douin (1990)の図から *Petrorhagia saxifraga* (L.) Link が似ているので、Flora Europaea (Ball and Akeroid, 1993)などの記述と照合し、よく一致することを確認しました。*P. saxifraga* はヨーロッパの中部・南部からトルコ・イランにかけて分布し、イギリスや北欧、北米などに帰化しています。

ネットの植物和名-学名インデックス YList で調べると、*P. saxifraga* にはハリナデシコの和名があることがわかりました。さらに和名で検索すると、日本でも園芸植物として栽培されていることがわかります。日本語サイトでは2枚貝のハリナデシコの方が多く、園芸植物としてはそれほど出回っていないようです。ハリナデシコの国内への帰化の記録は、調べた限りでは見つかりませんでした。中村(2019)はコモチナデシコ属の帰化植物について愛

知県周辺の分布を報告し、ハリナデシコについては、園芸植物として小規模に流通し、現時点では帰化していないと考えているが、流通経路等を注視していきたいと記しています。

今回の標本は花壇に隣接する更地で採集されたものなので、定着はしなかったと思いますが、種子繁殖していると思われるので、今後再発見される可能性はあります。標本: 山形県小白川町馬見ヶ崎プール南方 2004年7月28日 鈴木 暁 (KPM-NA02201620)

文献

Ball, P.W. and J. R. Akeroid, 1993. *Petrorhagia* (Ser. ex DC.) Link in Tutin et al., *Flora Europaea* Vol.1, second edition pp.224-227. Cambridge University Press, London.

Bonnier, G. and R. Douin, 1990. *La Grande Flore en Couleurs de Gaston Bonnier*, Vol. 1. 25pp + 467pls.. Institut National de la Recherche Agronomique, Paris.

中村 肇, 2019. コモチナデシコ属の分布調査(中間報告). *なごやの生物多様性* 6: 41-45(2019)

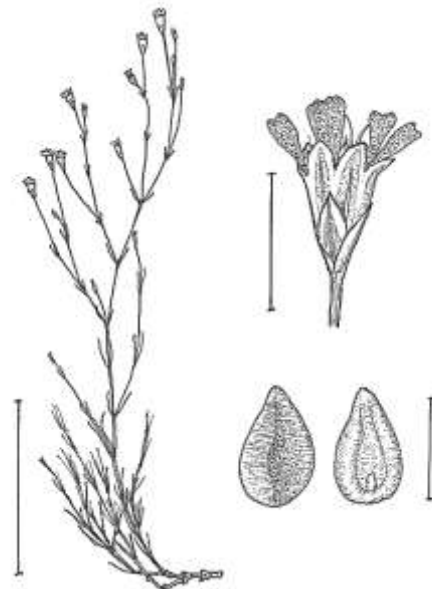


図 左:全形(スケール 5 cm) 右上:花(スケール 5 mm) 右下:種子(スケール 1 mm)